

研修名

人 権 I

平成29年7月4日(火) 10:00~12:30

講 演

「人権を大切にする保育  
～子どもの人権に関する基礎知識を学ぶ～」

講 師

佛教大学 原 清治 氏



## 1 大学で増える「ぼっち席」

1) 個人の学力を追いかけていくと思春期にガタッと落ちることがある。



その大半は**いじめ**が原因である。

例) 三歳の頃トイレに行きたくて先生に言ったが、「ダメ！」と言われたことがずっとトラウマになって、トイレに行くのが怖くなってしまった。

→ 子どもの時の先生のたった一言で良くも悪くも人生が変わってしまう。

- ・近年の大学ではぼっち席が多い。(壁で囲われた席・周りを気にしなくて良い席)  
↓ なぜこのような事が多くなったのか？人権という観点からみると…
- ・子どもたちは幼い頃からずっと繋がることをあおられている。

### ※ **人間関係を強制的にしない！**

小学校に入る前くらいまでは、一人でいたければ一人でいさせてあげれば良い。繋がれ、繋がれと言えば言うほど子どもは逃げ場を無くしてしまい、思春期の時に、自分はコミュニケーション能力が弱いんだと思わせてしまう。先生に言われた何気ない一言が、ずっと心に残っている場合もある。

## 2 最近の子どもたちの人間関係

1) 顕著になってきた傾向

- ・少人数化 ⇒ 親が人間関係を固定する場合が多い
- ・スクールカースト (序列化) ⇒ ボスの後ろについて回る
- ・同質化・島宇宙化 ⇒ 同じ価値観を持つ者として友人関係を築かず、他のグループにはほとんど関心が向かない。無関心。

(親が自分に関係の無いことは放っておきなさいと言って、子どもたちの自由を奪っている場合も多くある。)

### 3 人権の視点から見た教育の公平性と卓越性

教育の公平性 (equity) 全ての子どもにある一定の能力 (躰や学力) を身に付けさせることと同時に、教育の卓越性 (excellence) 高い能力を持つ子どもの可能性を最大限引き出すことを重要視する。

※ その子の可能性を最大限引き出す言葉掛けや、その子の良い所をその場で具体的に褒めることが最も大切である。

### 4 学力差によるいじめの違い

- ・ 上位校 … 拡散型 ⇒ 人間関係を笑ったり、いじったりネタする  
↳ 背景に問題がある場合が多い。親の関わり方受験等のプレッシャーから逃れるために人を馬鹿にしてストレスを発散させる。
- ・ 多様校 … 直接攻撃型 ⇒ その子に対して直接悪口を言う。

※ 勉強ができるからと言っていじめが少ないとは限らない。

### 5 文化葛藤理論と問題行動

自分と違う考えがあると言うことを幼児期から教えていかなければならない。  
みんな違ってそれで良い。みんながみんな同じではない。

↓ それができれば…

お互いを認め合うことが出来き、自尊感情が向上する。

※ 保育園等では、子どもたちの良い所探しをみんなですていくことが大切である。

### 6 意味のあるルールの共有は規範意識の基礎を育てる

自分の喜びや楽しさを共感してくれた他者 (親、先生) がいたら、大きくなった時に、人の悲しみや辛いという感性に寄り添うことが出来る子どもになる。

※ 親や先生が日頃から、共感してあげることが大切である。

**感想)** 原先生のお話は時折冗談を交えながら分かりやすく丁寧で、あっという間の二時間半の研修でした。データがあるからこそ学べることも多くあり、自園に持ち帰り、子どもたちの人権についての知識をもっと深めていきたいと思いました。

(記録 みみづく保育園 村上有里 岡田さつき)